

令和5年度  
県政モニターアンケート調査結果

---

テーマ：「ふくおか教育月間」について

教育庁教育総務部総務企画課

## 1.調査の目的

本県では、県民の皆さんに教育に対する関心と理解を一層深めていただくとともに、家庭、学校及び地域社会が連携して本県教育の充実と発展を図るため、毎年11月を「ふくおか教育月間」に定め、著名人による記念講演や児童生徒の発表などを行う記念イベントを開催したり、「ふくおか教育月間」のイメージキャラクター「ミライル」※を活用した啓発チラシを配布したりしています。

皆さんの「ふくおか教育月間」の認知度等についてお聴かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思っております。

## 2.調査時期

令和5年9月15日～令和5年10月3日

※ イメージキャラクター「ミライル」とは

これからの社会にはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。

「ミライル」という名前には、笑顔(スマイル)が溢れる未来(ミライ)

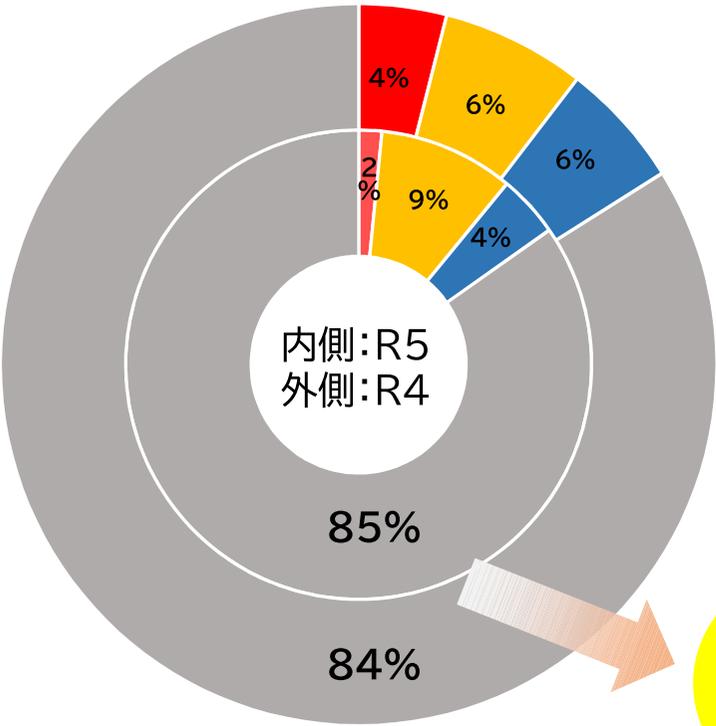
に羽ばたいてほしいという願いが込められています。



# 問1 「ふくおか教育月間」やイメージキャラクター「ミライル」を知っていますか。

(n=373、選択は1つのみ)

- 1 どちらも知っている  
(聞いたことがある)
- 2 「ふくおか教育月間」だけ知っている  
(聞いたことがある)
- 3 イメージキャラクター「ミライル」だけ知っている  
(見たことがある)
- 4 どちらも知らない



選択肢	人数	割合
1 どちらも知っている(聞いたことがある)	6人	2%
2 「ふくおか教育月間」だけ知っている(聞いたことがある)	35人	9%
3 イメージキャラクター「ミライル」だけ知っている(見たことがある)	16人	4%
4 どちらも知らない	316人	85%

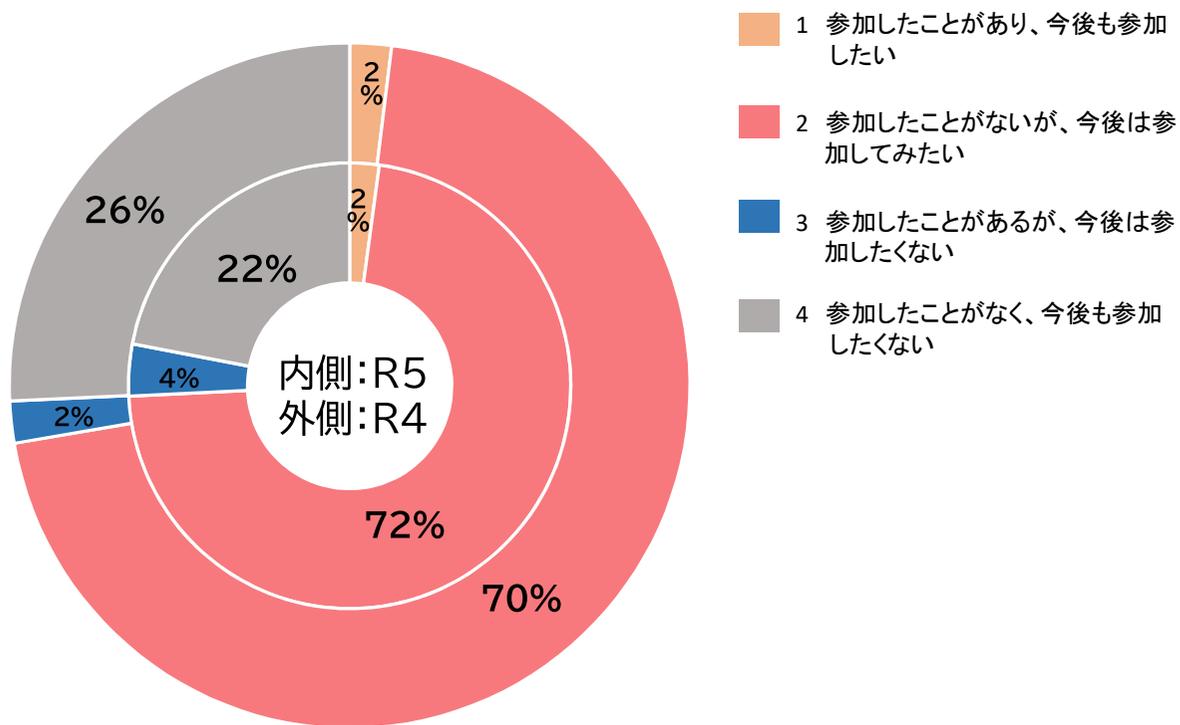
# 問2 どこで知りましたか。

(問1で[1][2][3]を選んだ場合、n=57、複数選択可)

福岡県のホームページ	27人
新聞広告	12人
WEB広告	12人
「ふくおか教育月間」記念行事のポスター・チラシ	16人
フリーペーパー	5人
学校からの案内	9人
家族・知人からの紹介	2人
その他	3人

### 問3 「ふくおか教育月間」記念イベントや、学校や地域における教育に関する行事等に参加したいと思いますか。

(n=373、選択は1つのみ)



選択肢	人数	割合
1 参加したことがあるが、今後も参加したい	8人	2%
2 参加したことがないが、今後は参加してみたい	269人	72%
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	14人	4%
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	82人	22%

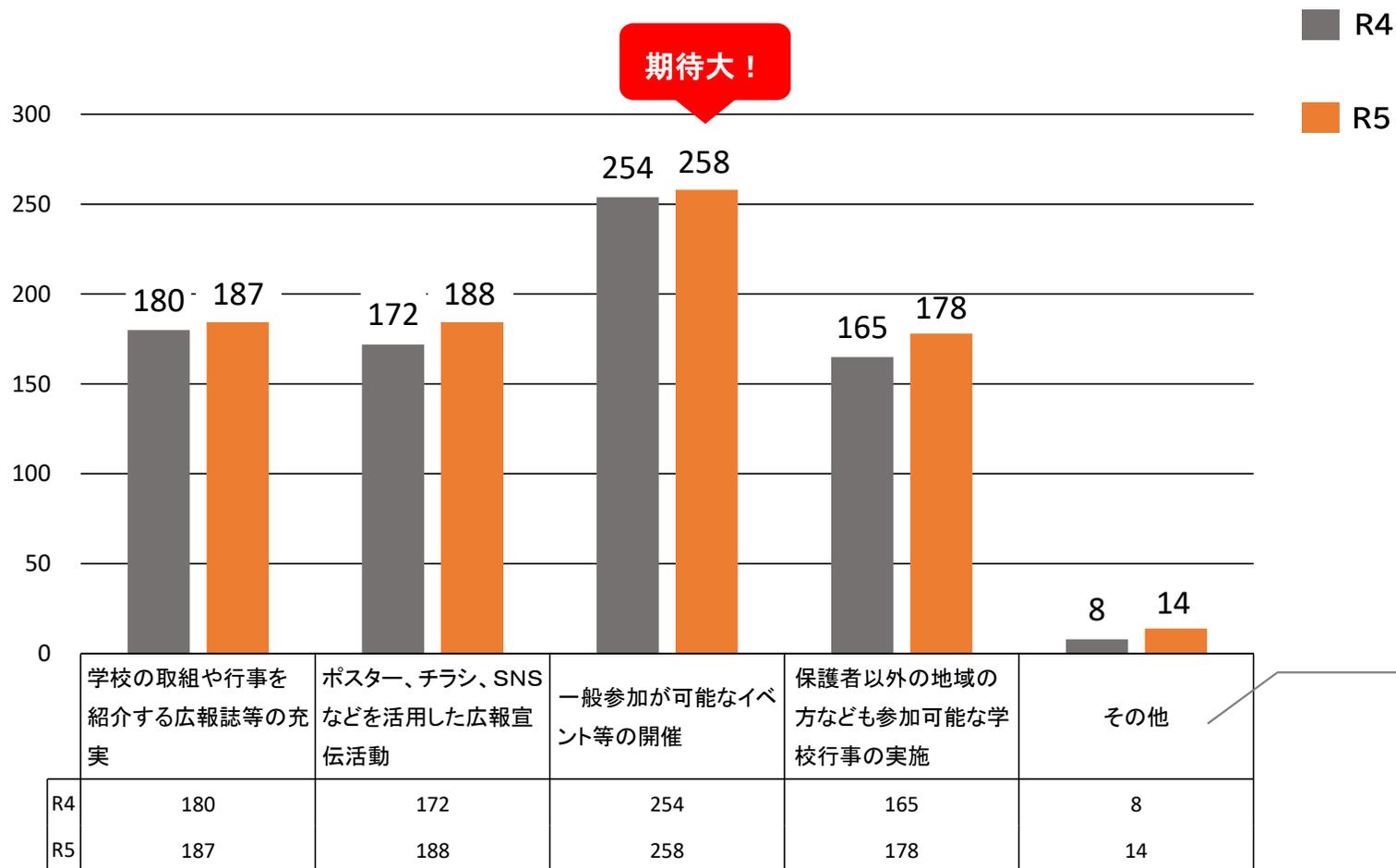
「ふくおか教育月間」記念イベント等に

**約7割の方が**

参加したい(してみたい)と回答しています

# 問4 教育に対する関心と理解を深めるために、県に対してどのような施策を期待しますか。 (または有効だと思えますか。)

(n=373、複数選択可)



### 主な意見(抜粋)

- 地元企業と協働での教育活動の実施
- 県民を巻き込んだ教育についての討論会

## 問5 「ふくおか教育月間」について、これまでの設問以外に意見がありますか。

(n=123)

### 「ふくおか教育月間」やイベントについて

- 今初めてこの取り組みやキャラクターを知りました。これから深く知って行って、私自身も勉強しながら子どもと楽しく取り組んでいけたらと思います。これをきっかけに知れて良かったです。
- 大人から子どもまで参加できる内容が良い。講演やシンポジウムは、参加者が時間と場所を運び、参加へのハードルが高くなるため、参加しやすい環境の整備が重要だと感じる。
- 不審者情報も多い中ではありますが、登校班を見守ってくださる地域の方のありがたさも分かっていますので、普段見守ってくださる地域の方が参加できるイベントや表彰があると良いと思います。
- 子どもに伝わるように、今後、日本をどのようにしたいかを考える機会にしてほしいです。
- 「教育」と言っても、どういったことを行っているのか、何が教育に当てはまるのかが分かりづらいと思った。
- 多くの方に参加していただくため、難しい話だけでなく、楽しい、ゲーム感覚、遊び、といったハードルの低いコンテンツも必要ではないかと思えます。また、国内だけでなく、アジアや欧米など国際的な人材も交えてはどうかと思いました。
- 社会全体で子どもたちを教育するという取り組みは素晴らしいと思えます。具体的な成果を広報し、高齢者も参加できるように進めて欲しいと思えます。
- せっかくの教育月間であれば、福岡の歴史文化や、地域の特産物(自然との共生)など、「福岡ならではの教育」について焦点を当てて欲しいと願います。
- 「ミライル」は名前の由来も含めて素敵なキャラクターだと思います。
- 毎年11月だけでなく、定期的に講演やイベント等をした方が、認知度も上がり取り組みが定着して良いと思う。 等

### 情報発信について

- 全く取り組みを知らなかったのでもっと県や市町村の広報誌で紹介してほしい。
- 子どもがいなくてこういった情報は届きにくいと思った。
- 子どもがいなくて家庭だからなのか、情報が入ってくるのがないです。
- 子どもや孫が近くにいないシニアにとっては学校との縁がない。保護者でなくても学校行事に参加できたり、今の学校の授業を見たい。
- 家庭内では、子どもとの会話がありますので、学校での活動や情報発信をしてもらい、子どもから聞く流れを作っていたらいいです。 等

### その他

- 授業参観に参加してもどこがICT教育なのかちょっと分かりません。
- 学校等の教育現場だけに任せることなく、家庭や地域、企業や団体、警察、海保、消防等の公的機関と連携して、教育の質、多様性を高める必要があると思えます。身近な環境だけでなく、様々な文化や価値観に触れることも重要かと思えます。やはり、外国語教育を充実させ、異文化や海外体験なども実施すること大切であると思えます。
- 子どもたちが平等に教育を受けられるように、現場の職員の声を聴いて明るい未来に向かっていける環境を作って欲しいと思えます。そのことに、地域住民として協力していきたいと思えます。
- 教育の現場での課題は、学校内だけでの議論では解消しきれないものがあると思われる。そのため、地域、行政が手を取り合いながら課題解決に向け、動くことができるようなモデルを作ることが必要。
- 現在の学校教育等の子どもに関わる教育内容等について子どもを中心とした意見交換会のような取り組みも必要ではないか。
- 保護者や地域の人に関われる授業があればいい。
- 海外の留学生との交流で語学を学べる機会がほしい。
- 学校の先生の負担につながらないように配慮していくべき。
- 地域社会において、子どもたちにどのような教育をしていくべきかを地域社会が考えていく必要があると思えます。そして、教育に関しては、現在、社会課題の解決に地域社会の連携・共助が重要であることから、社会と個人のつながりが薄れつつあるけれども地域社会と自分自身がつながることが必要であることを子どもたちに理解させることが重要であると思えます。 等